

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>京都府立盲学校創立150周年に向けて、時代のニーズに応じた学校づくりを当面5カ年計画で目指す。（3年目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育システムの構築に向けた教育改革 ・幼稚部から高等部専攻科までの専門的な教育環境の整備 ・共生社会の実現を目指した地域・関係諸機関との連携再構築 ・「京都盲啞院関係資料」の重要文化財指定答申を受けた管理・保存と活用 ・京都府立聾学校と連携した150周年記念資料集の編纂 	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営会議の定例化により、学部横断的な諸課題について、担当者を含めた議論を継続的に行った。 ・「幼小・中学部（大徳寺校地）・高等部（花ノ坊校地）」という組織改変への総括を行い、今後の方向性を確認した。 ・英語教育の充実を柱とした教育課程の見直しや、京都70ティアーズ及び理療科の教育課程の変更を行った。 ・自立活動の充実に向けた学部横断的な協議を積極的に進めた。 ・本校の歴史資料の整備を推進した。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係諸機関等との連携再構築を進め、視覚支援センターの教育相談機能の充実を図る。 ・視覚障害教育領域の免許取得の取組を積極的に進め、視覚障害教育の専門性の向上を図る。 ・新学習指導要領の本格実施に向けて、各学部が連携して「社会に開かれた教育課程」の編成に取り組む。 	<p>（1）視覚障害教育の専門性と指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育領域の免許取得の促進 ・各学部と連携した研究授業の充実 <p>（2）職業自立を目指し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業教育に関する検討の継続 ・高等部普通科京都70ティアーズと重複児童生徒の教育内容の充実 <p>（3）各学部における英語教育の充実</p> <p>（4）自立活動推進部の立ち上げによる、本校の特色ある自立活動の推進</p> <p>（5）ホームページ等情報発信と情報セキュリティの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのリニューアル <p>（6）関係機関との密接な連携と保護者や学校等への支援推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・福祉機関等とのネットワーク作り ・京都府北部における視覚支援センターの相談機能強化 <p>（7）本校歴史資料の管理・保存と活用に向けた諸課題の検討</p> <p>（8）ふるさと納税制度を活用した教育環境の充実</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
教育活動全般	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育の専門性、指導力・支援力の向上 ・進路指導の充実と職業教育における教育課程の検討 	【幼小】授業力の向上を目指した授業研究の実施や、日常的な児童の交流を行っていく。	B		<p>【幼小】 授業研究を実施し、学習指導における「子どもの意欲や友だちとの関わりを引き出す指導」をテーマに研究を行った。また、本校の教育内容（教育課程）についてわかりやすく示していくことが必要である。</p> <p>【中】 視覚障害教育の実践として、生徒のアセスメントを指導者で共有し自立活動を軸とした指導内容および指導方法について研究し交流を行い、実践事例集の作成も行った。</p> <p>府立特別支援学校全体で取り組んだ「各教科等を合わせた指導」実践研究推進事業において実践報告を行った。</p>
		【中】視覚障害教育の専門性をいかした、自立活動を柱とする指導内容や指導方法に関する研究を進め、研究成果として、実践事例集の作成を行う。			
		<p>【高】外部機関と連携した体験、実習等を取り入れ、進路指導体制の充実を図る。</p> <p>希望進路実現のために学力の向上を図り、進学や国家試験全員合格を目指す。</p> <p>進路先の拡大を目ざし、「研究部理療科」の教育課程を検討する。</p>	B		<p>【高】外部機関と連携し、出前授業やワークショップ等、多くの体験活動に取り組み、教育活動の充実を図った。各学科・コースの進路目標を見据え、教育課程の一部改善を図った。</p> <p>進路指導においては、多くの施設や職場で見学や実習を行い、卒業後の進路実現に向けた取組ができた。一方、大学進学指導については、指導についてさらなる充実が必要である。理療科にあっては、国家試験全員合格を目指し、直前まで模擬テストや個別補習に取り組んだ。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談機能の強化 	<p>【視覚支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部との連携を強化し、教育相談の充実を図る。 ・弱視児童生徒がタブレット端末を有効活用できるよう取組を進める。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・口丹・中丹における関係諸機関との連携が進み、保・幼・小・中学校への教育相談が充実してきた。 ・UD ブラウザによる教科書のデジタルデータの活用(タブレット端末)を積極的に推進し、弱視児童生徒の学習環境の向上に資することができた。

組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 各学部や各分掌との連携を大切に した組織運営の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 新分掌の自立活動推進部（幼小中学部・寄宿舍）及び自立活動担当者会議による活動を学校全体で支援し、教育活動全般を通じて自立活動の指導を 実践するための基盤作りを進める。 保護者に選ばれる幼稚部教育のあり方を検討する ため、幼稚部教育検討会議を設置し取組を進め る。 	A B	<ul style="list-style-type: none"> 部会の定例化、自立活動推進部としての活動内容の検討・実施（各学部の自立活動における指導内容の把握、研修会の企画、研究活動等）を確実に進めることができた。 学校案内 2018 及び幼稚部案内を新たに作成し、ホームページにも掲載した。また、幼稚部説明会を実施した。
研究研修	<ul style="list-style-type: none"> 共通テーマ「社会生活を見据えた指導～主体性を引き出すきっかけづくり」に即した校内の研究・研修内容の充実 専門的かつ実践的な知識と技能の共有化 授業力・実践力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 校内各組織との連携による基本研修や専門研修等の充実 年2回の視覚障害教育研究会の実施 全校授業公開・研究授業の実施および今まで集約した実践事例の活用へ向けた整理 	B B	<ul style="list-style-type: none"> 基本研修は、資料室見学（京都盲啞院関係資料が重要文化財に指定）、視機能評価、大学進学および福祉就労について、専門研修は点字を週1回、歩行を年20回実施した。 校内視覚障害教育研究会を年2回実施し、外部講師による講演の他、ノートづくりや整理整頓、身辺自立等について研究討議を行った。 全校授業公開は学部毎の期間が重ならないよう設定し、小1回、中・高（普通科・理療科）それぞれ2回ずつの研究授業を実施した。
生徒指導・ 安全教育	<ul style="list-style-type: none"> 学部間の連携強化 問題事象等に対して早期発見と組織的かつ計画的な対応 児童生徒の安全・防犯に関する意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒指導部会の定例化（年4回以上） 「いじめ防止基本方針」に基づいた幼児児童生徒の発達段階を踏まえたきめ細やかな指導の展開 <ul style="list-style-type: none"> *家庭・地域社会・関係諸機関との連携 *未然防止を第一に、早期発見、早期解消へ至る一連の対応の徹底 安定した学校生活を送るために必要なルールやマナーの徹底 各校地の特性を踏まえた避難訓練等の実施 	C B B B	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒指導部会の開催は計2回にとどまった。 京都府いじめ防止基本方針の改正を踏まえ、本校の「いじめ防止基本方針」を改定した。また、年2回のいじめ調査においても、小さな事象を見逃さず、指導をていねいに行った。 学校生活におけるルールやマナーの徹底を図るため、年度当初の学部集会（小・中学部）や毎週のアッセンブリー（高等部）で呼びかけを実施した。 校地ごとに2回の避難訓練を実施、2回目ははしご車を体験し、高所からの避難の仕方を知る機会となった。

広報発信・ 情報管理	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な情報発信 情報機器等のセキュリティ強化 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページのリニューアル及び適宜更新と適切な管理 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ホームページのリニューアル作業をさらに進めた。ホームページを適宜更新することで閲覧数が順調に伸び、多くの人に学校の様子を知らせることができた。 Wi-Fi 環境の整備については、大容量の通信ができない状況にあり、早急な対応が必要とされる。
		<ul style="list-style-type: none"> Wi-Fi 環境の整備を行うとともに、情報機器等のセキュリティの強化に努める。 	B		

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 盲学校卒業後の社会生活や職業生活を充実させるために、盲学校が関係諸機関との連携を一層強化していく必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理療科（三療）のイメージアップに向けた取組 ・ 視覚障害生徒の自由な進路選択（大学等）を保障するための条件整備 ・ 関係諸機関と連携した就労支援、理療科における実技研修・卒後研修の充実 ○ ホームページ等を活用した積極的な情報発信 ○ 地域で学ぶ子どもたちの心理的サポートを含めた地域支援の取組の一層の充実
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係諸機関と連携した就労支援、実技研修・卒後研修の強化 ○ 大学進学における指導・支援の充実(学習・進路指導の充実と点字受験にかかる条件整備等) ○ 盲学校及び視覚障害教育に関する情報発信のさらなる充実（地域支援、教育活動、資料室等）
-----------------------	---